

蕎麦や野菜、花きの生産者の皆さんも頑張っています。「いいたて雪つ娘」カボチャやナツハゼ、「宇宙エゴマ」などは6次化にも力を入れています。

畑地を生かして

topic1 飯舘村そば勉強会

6月4日、交流センター「ふれ愛館」で、『飯舘村そば勉強会』を開催しました。相双農林事務所農業振興普及部の根本直人さんには「福島県オリジナルそば品種の特徴と栽培について」、浜地域農業再生研究センターの佐藤越萌(こすも)さんには「除染後農地におけるそば生産について」講演をいただきました。生産者の皆さんからも具体的な質問が数多く出され、参加者がノウハウや知見を共有する機会となりました。



topic2 6月の農地にて

この季節ならではの風景が見られると情報をいただき農地の撮影にうかがいました。右下は鮎川邦夫さん(小宮)が営む「あゆかわ農園」の麦秋の風景。金色に光る六条大麦「はねうまもち」の畑です。左下は菅野隆幸さん(関根・松塚)の行者ニンク畑。出荷を終えた畑が花畑に姿を変えていました。



飯舘村未来へつなぐ農業支援事業補助金 〈村単独事業〉

村が指定する推奨品目の作付け、農業の省力化・効率化、農業技術の習得・継承を行うことで、農業経営の発展・安定化を図るため、出荷量・販売額の向上を目的に農作物を栽培するための費用の一部を支援します。

補助メニュー

- 研修・講習等に係る費用への支援 補助率 2分の1 以内(補助上限額1.5万円/人)
- 資格・免許等に係る費用への支援 補助率 2分の1 以内(補助上限額 3万円※農耕用大型特殊等※特別枠・ドローン認定制度受講10万円補助)
- 消耗品等栽培に係る費用への支援 補助率 2分の1 以内(補助上限額 個人10万円 法人等30万円)
- 農業用施設・機械導入・修繕等支援 補助率 4分の3 以内(補助上限額75万円)
- 農業用施設・機械の譲渡支援 定額(補助上限額 5万円)
- 新品目チャレンジ支援 定額(補助上限額10万円)

申請時に「事業計画書」と「各補助メニューの必要書類」を提出していただきます。「事業計画書」の様式は産業振興課農政係に用意してあります。必要書類は補助メニューによって異なります。

事前申請が必要なものもありますので、活用をご希望の方はぜひお問い合わせください。

問 産業振興課農政係 ☎0244-42-1621

県が高冷地向けに開発したもち米品種「あぶくもち」。村も生産組合の皆さんと共に、「あぶくもち」の復活と特産化に取り組んでいます。

あぶくもち

生産拡大へ前進！飯舘村あぶくもち生産組合

福島県農業総合センターが高冷地向けに開発したもち米品種「あぶくもち」。

飯舘村は、震災で中断された「あぶくもち」の栽培を、福島県相双農林事務所の協力のもとで復活させ、青田豊実さん(前田)を組合長に発足した生産組合と共に、生産拡大に努めています。

昨年収穫された34tの「あぶくもち」は全て一等米で、大手コンビニエンスストア、セブンイレブン・ジャパンの切餅と、「おこわおむすび」に使用されました。一方、村内の飲食店なども工夫を凝らして、「あぶくもち」の加工・販売を行っています。

飯舘村あぶくもち生産組合が、5月中旬から、種もみ用と食用合

わせて約24ヘクタールのほ場に田植えを行いました。また、森永正男さん(前田・八和木)のほ場では、いいたて希望の里学園・前期課程の児童が「あぶくもち」の田植えを体験しました。

毎年最初の田植えには、県と村、双方の職員も参加しています。また、秋の収穫まで、生産組合が主体となり栽培管理を行います。村も県の協力のもと支援を行い、品質・収量を確保していきたいと考えています。

また、今年度から、大内清明さん(佐須)と高野靖夫さん(前田・八和木)の2人が組合に加入し、生産者が5人に増えました。今後の生産拡大に向けて、いっそう期待がふくらみます。



大内清明さん(佐須)は、農地中間管理機構が集積した農地の担い手として、宮内地区で農業に取り組んでいて、今年から「あぶくもち」の生産に加わりました。「宮内地区は土がよくて、いい米が取れます。8haにあぶくもちを作付けしました」。大内さんは、地元の佐須地区の基盤整備が進めばさらに耕作面積を拡大し、最終的には50haまで広げたいと考えていて、農業法人の立ち上げも計画しています。

5人の組合員が生産に取り組みます

右の写真は5月15日に前田地区で行われた今年初の田植え風景。生産組合のメンバーは、右

から青田豊実組合長(前田)、森永正男さん(前田・八和木)、庄司久則さん(小宮)、高野靖夫さん(前田・八和木)。上の記事の大内さんと合わせて5人が生産に取り組みます。

